

寄付を適正配分する AIアプリの開発と実証実験

宮田 龍太¹, 本村 真², 殿岡 裕樹³, 照屋 愛子³

¹ 琉球大学工学部, ² 琉球大学人文社会学部, ³ 琉球大学研究企画室



1. 対象とする社会課題の背景: 県の子どもの貧困

全国と比べ特に深刻な状況にあり, 対策が急務

沖縄子供の貧困緊急対策事業 令和3年度予算額: 14.6億円 (+0.2億円)

○ 沖縄における子供の貧困の実態は、全国に比べ特に深刻な状況にあることから、平成28年度から「沖縄子供の貧困緊急対策事業」を実施している。

○ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症等の状況下でも、貧困家庭の子供に安全な食料を十分に提供するため、食料調達の支援及び配送のネットワーク構築に取り組む。

■ 平成28年度から「沖縄子供の貧困緊急対策事業」として次の2事業(※1)を実施。

子供の貧困対策支援員の配置

支援を必要とする子供に関して学校等の関係機関との情報共有や、子供を就学援助や子供の居場所などの支援につなげるための調整を実施

※ 貧困対策支援員・居場所の職員について、習熟度に応じて実施する段階的な研修体制を構築

子供の居場所の運営支援

地域の実情に応じて、食事の提供、生活指導、学習支援等を行いながら、日中や夜間に子供が安心して過ごすことができる居場所を提供

本プロジェクトの対象

| 子供の居場所 | |
|--------|--------|
| 従来型居場所 | 142箇所 |
| 拠点型居場所 | 12箇所 |
| 若年妊産婦 | 3箇所 |
| 合計 | 156箇所※ |

※ 重複があるため合計箇所数は一致しない。

■ よりきめ細かく、手厚い対応を推進するための取組を実施。(令和元年度から)(※2)

手厚い支援が必要な子供への支援の強化

子供の居場所における専門的支援

➢ 将来のキャリア形成に向けた専門家の派遣等により、子供の居場所での子供の年齢等に合わせた確かな支援を実施

拠点型子供の居場所の整備

➢ 手厚い支援を必要とする子供に対応できる「拠点型子供の居場所」の提供

若年妊産婦の居場所の展開

➢ 若年妊産婦の居場所の設置などを更に推進等

離島・へき地における取組の支援

小規模離島町村での取組の実施

➢ 小規模離島の町村に支援員を配置(本島からの定期的な派遣等)し、支援が必要な子供に適切な対応を実施

個々の取組を超えた対応力の向上

全居場所による連絡会の設置

➢ 居場所間の横のつながりを強化し、好事例の共有等を行う

電話・メール等による相談支援体制の整備

➢ 支援員による取組を補完するものとして、電話・メール等による相談窓口による相談対応等

新型コロナウイルス感染症を踏まえた支援体制の向上 (R3年度新規)

食支援連携体制の構築(※2)

➢ 居場所と企業等における食料品調達の調整及び配送等を実施

居場所の衛生環境改善(※1・2)

➢ 感染症予防のため、トイレや調理施設等を改修し、居場所の衛生環境を改善するとともに、過密状態の解消を図る

補助割合 ※1の事業 9/10 ※2の事業 10/10

1. 対象とする社会課題の背景: 子どもの居場所

- **子どもの貧困対策としての食育, 学習支援, 遊びの場**
 - 経済的な支援だけでは補えない, 人とのつながりや教育・体験の機会を提供
 - 子どもの自己肯定感の向上, 孤独・孤立の解消に貢献
 - ボランティア活動が中心となって運営
 - **継続的な運営には賛同者からの寄付が不可欠**



1. 対象とする社会課題の背景: 居場所の運営支援

• 企業や団体から寄贈された食料品や生活用品, 学用品を子どもの居場所に提供し, 子どもたちへ届ける取り組み

1. おきなわこども未来ランチサポート(主に食料品の受取・受渡)
2. 沖縄県社会福祉協議会(主に生活用品や学用品の受取・受渡)

誰ひとり取り残さない社会
を作るため「つながる」食
支援をきっかけに企業と子
どもの居場所をつなぐプ
ラットフォームへ。



令和5年6月21日(水)、沖縄明治乳業株式会社様
(代表取締役社長 仲田 和男様) から「県民の健康
と生活文化の創造に貢献する」という理念に基づき、
本会を通じて「第44回 明治ファミリー劇場」招待
券238枚を県内児童福祉施設... [続きを読む](#) →

<https://www.okishakyo.or.jp/blog/category/news/gallery/>

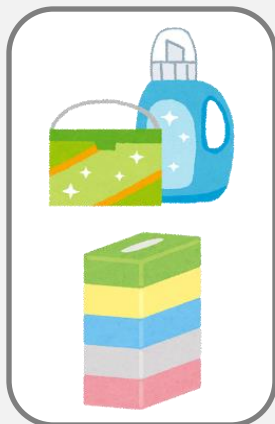
1. 対象とする社会課題: 運営支援の人手不足

- 「どこに・何を・いくつ配るか」, 今まで特定の人だけで作業
 - 一度に届けられる寄贈品は膨大で, 種類也多岐に渡る
 - 受取を希望する居場所の数も多い
 - ランチサポートでは富田代表が毎回1.5時間(×週3回)かけて思案
 - もしも担当者が対応できない状況が続くと, 活動が成り立たなくなってしまう

企業からの寄付



食料品



生活用品



学用品

寄付の窓口



- ・ランチサポート
- ・県社協

受取を希望する居場所



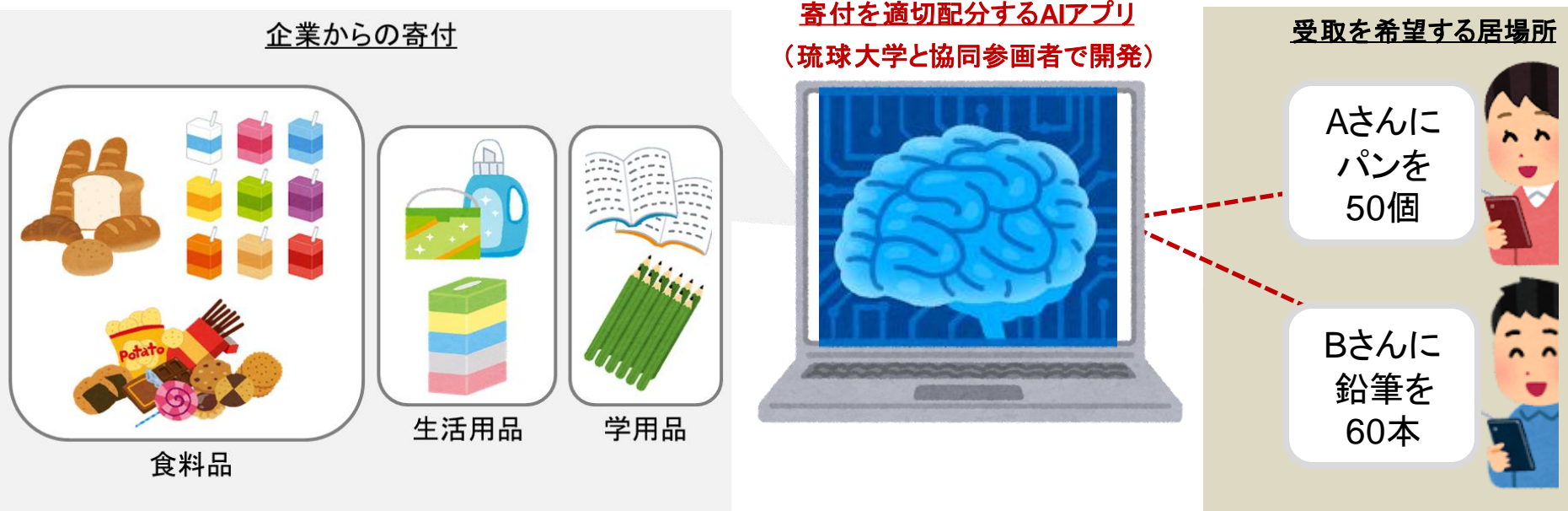
1. 社会課題への提案: AIで脱属人化・業務効率化

1. ランチサポートや県社協の分配実績をAIに学習させて、寄付を子どもの居場所に適切配分するwebアプリを開発

- 寄付の受入体制を強化

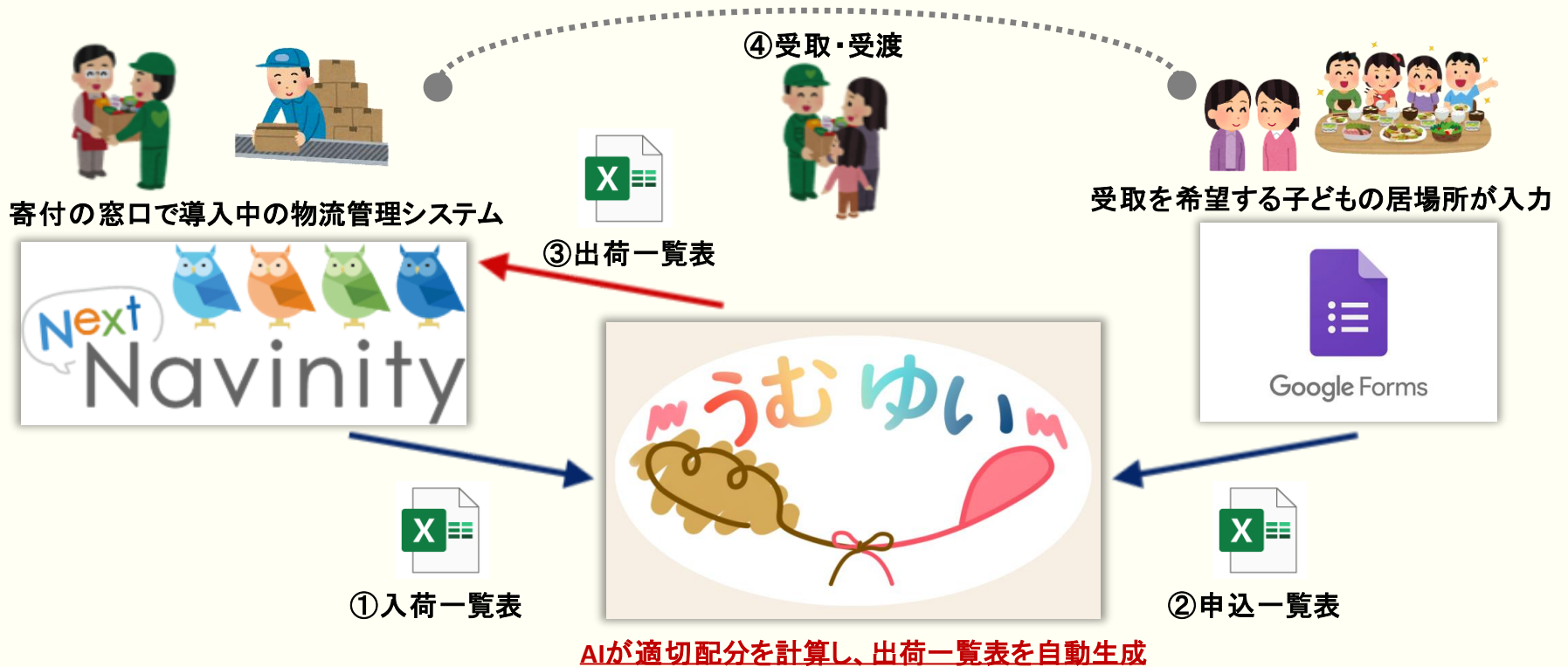
2. 開発したアプリの実証実験を県内で実施

- 実運用で起こり得る課題について、法律等も踏まえて多角的に検証



2. 活用する研究成果: 食料配分AIアプリ「うむゆい」

- 既存のシステムと協調しながら業務のDX化を促進
 - 熟練者でも1.5時間かかっていた配分計算を大幅に時間短縮



3. 今年度開発した「うむゆい2.0」の特徴

1. 配分できる物資が 5 → 40品目に

- 食料品だけでなく、生活用品や学用品にも対応

2. お米や粉物は、商品名にある重量情報を加味して配分

3. 見やすいデザイン

- 配りまちがい防止策

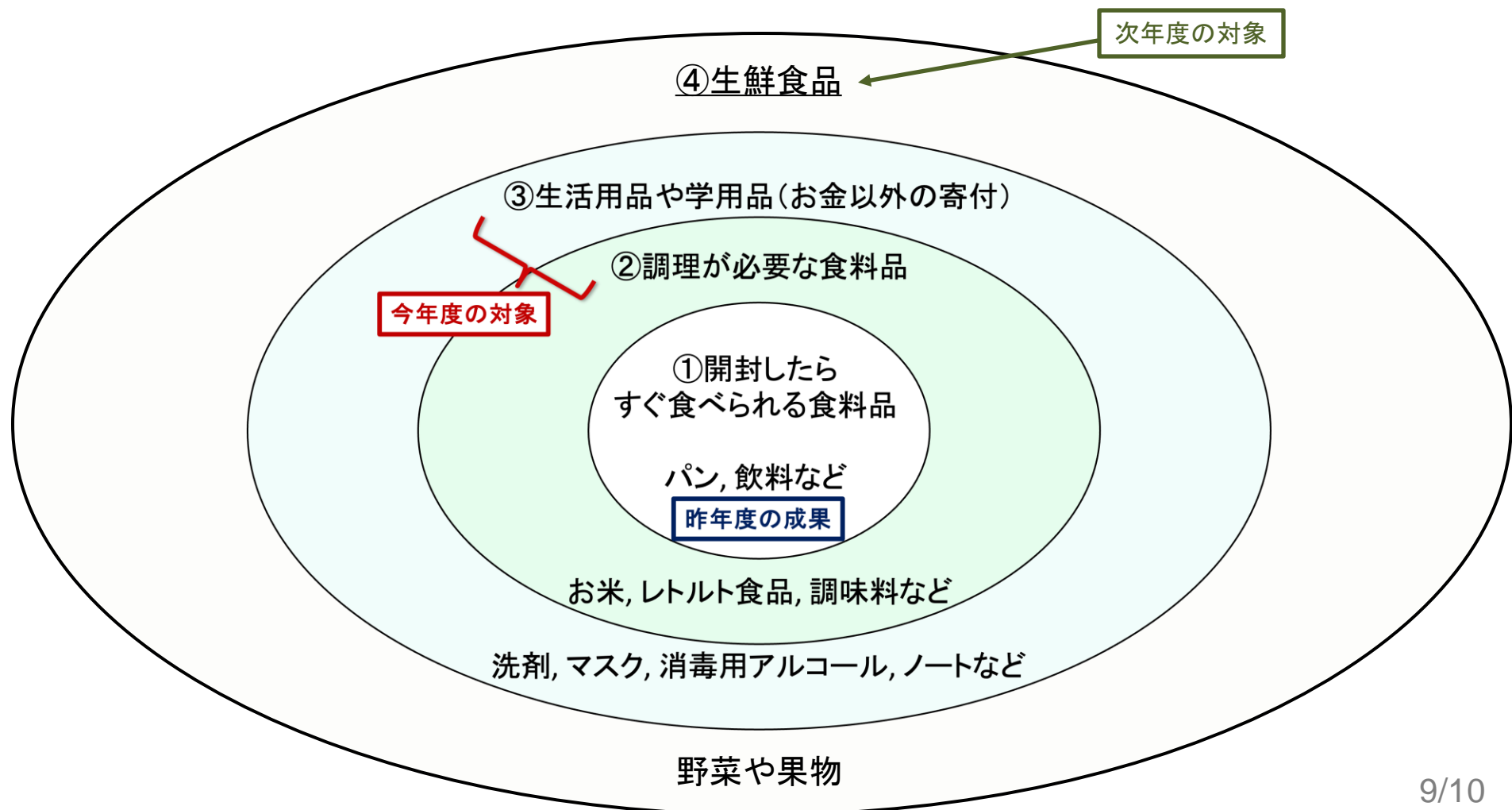


4. 配り先となる子どもの居場所を市町村別に検索

[詳しくはアプリのデモンストレーションをご覧ください!](#)

3. 社会課題解決までのシナリオ: アプリで扱う寄付

- ランチサポートに届く大半の寄付(お金以外)をカバー



3. 科学技術プロジェクトのシナリオでの位置づけ

- 寄付の受入体制を強化し、子どもの居場所の運営を支援

